

外部評価意見への対応方針

番号	外部評価意見	対応方針	分類
1	<p>■戦略3-2 増収・増客の推進</p> <p>限られた経営資源を効率的に活用するためにも、「めざす状態」、「アウトカム」を設定する際に、「今後の集客ターゲットをどう定義するのか」、また「ターゲットに設定した人々をどう集客するのか」という観点から、「現状分析を踏まえた上で」さらなる修正をはかっていくことが望ましい。26年度運営方針の、経営課題の「現状」をみると、「今後、少子高齢化や敬老パスの本人負担導入により、乗車人員・運賃収入の減少が見込まれる」とあるが、現時点でその兆候はないのか（増客の陰に隠れていないか）、それが見受けられる場合には、その客層が減少した詳細要因の分析など、まずは現状分析をより綿密に実施することが重要である。またその結果を踏まえて、単に新規顧客を増やすことだけではなく、定期使用者（通勤客、学生）等に対してどう対策を行うのか、すなわち既存顧客層の減少の抑制策についても考えていく必要がある。</p>	<p>沿線地域と連携を図り沿線の魅力を高めるとともに関西圏のイベントや観光地についても情報発信を行っている。また、魅力的な企画乗車券の開発・販売を行うことで、沿線、沿線外、海外のお客さまなどの新規顧客をターゲットとした増客増収対策に取り組んできた。</p> <p>既存顧客層の減少の抑制策については、定期使用者（通勤客、学生）などは、経済情勢に大きく左右されるものであり、企業や学校の誘致などの街づくり施策と合わせて実施していく必要であるものとする。今後、大阪市の関係部局とも連携を図りながら進めてまいりたい。</p>	③
2	<p>26年度運営方針では、「前年度までの実績」欄が、単にイベントの羅列になっているため、「業績目標」にあわせて、各イベントでの増客状況などを記載する方が望ましい。</p>	<p>各イベントの増客状況の記載は、数多くのタイアップやPRを行っている現状であり、記載スペースの制限もあり、27年度の運営方針には反映できなかった。個々のイベントについての分析は引き続き行っていくが、今後表現方法については検討してまいりたい。</p>	③

※分類

- ①当年度において対応 ②来年度運営方針に反映または来年度に対応予定
 ③来年度では対応できないが、今後引き続き検討 ④対応困難または対応不可
 ⑤その他